

市民と市長の意見交換会<両津地区 夜の部> 質疑要旨

日時：令和3年11月13日（土）18：30~20:00 会場：佐渡島開発総合センター3階 大集会室

参加人数：31名

○質疑要旨

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
泉	医療の問題について、島内病院の閉院、縮小が進む中で、今後どのような対策を考えているか教えてほしい。	現在は看護師確保に重点を置いている。報道された新規看護師への100万円の支給に関しては、人工呼吸器を扱えるような医療レベルの高い看護師を対象としている。将来的には研修医を含めた医師を佐渡病院に集め、各病院に派遣していく以外難しいと考えている。 両津病院は佐渡病院のサブポジションとして重要。佐渡病院でコロナの院内感染が発生したときに、急性期患者の受け入れや通常治療ができるのは両津病院のみ。離島であるがゆえの状況を県に説明し、2か所残せるよう取り組んでいる。 人口減により急性期患者は減少すると予想されるが、慢性期看取り期の対応に課題が多い。医療・福祉の連携体制を強化していく。また遠隔医療を取り入れる必要もある。	医療対策課
両津湊	男女とも40~60代の独身者が多い。子育てのサポートだけでなく、独身者を引き合わせる機会を作ってほしい。	市職員の時に出会いの場の創出や婚活イベントなど結婚対策を行ったが、なかなかうまくいかなかった。むしろ皆さんからアイデアを頂戴したい。全国的に成果を上げているのはアプリでの出会い。佐渡版のアプリを作れば成果が出るかもしれない。	企画課 地域振興課
加茂歌代	男女の出会いの場として、飲食店での小規模イベントを数回に分けて行うことを最近考えている。	例えば「結婚マイスター」という人を認定して、その人を中心にイベントをやってみるのも良いのでは。成就しなくてもまずは機会を作っていくことが大事。	企画課 地域振興課
加茂歌代	移転新築後の両津病院の病床数や機能を知りたい。	病床数は今と同程度の60床程度を予定している。病院関係者の努力で経営状況が昨年より良くなったと聞いている。コロナ禍でも収入は上がっていて、市民に支えられていることを実感している。ただし20年後くらいには経営が厳しくなることを想定している。病院を維持するためには、人口減少でも島の経済規模を落とさないことが重要。次世代の医療体制として、医師の確保はもちろん遠隔医療への取り組みを行っていく。	両津病院 医療対策課
加茂歌代	島内における潜水事業は需要が多く重要だが、危険を伴う作業のため万全な医療体制が必要。潜水病は佐渡病院では対処できず、再圧室のある燕労災病院での治療となるが、2023年に県央基幹病院に指定される際に再圧室がなくなるという話があり危機感を持っている。佐渡市としても働きかけてほしい。	コロナ対策では県の医療系トップと協議し離島のハンデを克服すべく取り組んできた。再圧室の件についても確認する。新潟県としても、港湾で大きな事業がある中で、再圧室がなくていいのか、どんな医療体制で行くのか、率直に話をしてくる。	医療対策課

市民と市長の意見交換会<両津地区 夜の部> 質疑要旨

羽吉	<p>図書館の都会との格差が大きいと思う。同じレベルにならないのは仕方がないが、格差是正に努めてほしい。新刊図書の購入や、移転後の佐和田図書館に学習室の設置、パソコン作業ができる場所と読書する場所の分けなど、使用者が利用しやすい図書館を希望する。</p>	<p>佐渡は合併後美術館もなく博物館も弱い、文化芸術に関する行政は遅れていると思っていて、解決に向けて取り組みたいと考えている。図書館については、島内にある10の図書館に予算を配分しなければならないという現状がある。中央図書館の蔵書は確保しつつ、図書館別の特色を出せるような努力をしていく。佐和田図書館については教育委員会に任せているが、佐渡高校も近いので、子供たちが勉強しやすい環境にする。また若い住民も多いので、読み聞かせなどの拠点にしても良いと思う。パソコンについての意見は現場に伝える。</p>	社会教育課
吾潟	<p>公共施設のトイレの中には、目を覆いたくなる場所がいくつかある。両津支所の周りも雑草が目につく。花の島と謳っているが、沿道にはセイタカアワダチソウばかり目につく。市営住宅の空き家の雑草や耕作放棄地、放置ごみの課題にも取り組んでほしい。</p>	<p>公衆トイレは建設費用から維持管理費まで億単位のお金がかかる。公衆トイレを新しく作るよりも今あるトイレをどう活用していくのか、公共や民間施設とも連携して考えていきたい。両津支所も本庁も、職員一人一人の意識が重要であり、おもてなしの取り組みを進めていく。セイタカアワダチソウの問題は、耕作放棄地の課題とセットだと思う。草刈りを行っている農地には生えない。県には県道の草刈りを依頼した。キレイな島と言われるよう取り組んでいく。ごみについては「3R」(リユース リデュース リサイクル)を徹底していく。</p>	<p>環境対策課 農業政策課 建設課 両津支所</p>
—	<p>空港や空路の現況について知りたい。</p>	<p>トキエア(株)が滑走路が890mしかない佐渡空港でも飛べるATR社の機体「ATR42-600s」での2023年就航を当初計画していたが、コロナの影響で機体納入が2025年と遅れるため、現行機の「ATR42-600」での2023年以降就航についてトキエア、ATR社、県等で検討しているところである。</p>	交通政策課
両津夷	<p>商店街について。商工会で空き店舗の一部を借り上げて貸し出すことを行っているが、今のところ軒先に店を出せる程度にとどまっている。できれば居ぬきで使える空き店舗をリフォームして起業に使うしてほしいが、費用が高額のため現実的に厳しい状況。商工会でも補助はするが、市でも起業時の補助金に加えて空き店舗のリフォームに使える補助金があると良い。また商店街の縮小を視野に、佐賀市や丸亀市の先進事例を参考にしてアクティブシニアが暮らせる生活の場として活用できるよう、市と各地の商店街で連携して取り組んでいきたい。</p>	<p>企業が使用するために自治体が空き家改修を行う場合、テレワーク交付金という国の大きな財源を活用することが可能。現在佐和田の商店街で民間の会社がワーキングスペースを開くとも聞いている。おっしゃる通り、商店街の再生には物を売らなくても人を呼び寄せる仕掛けが重要。「お試し住宅」として移住希望者の受け入れも検討してほしい。ただし移住者とのトラブルがあった場合、行政では対応できかねるため地域で話し合いを行っていただかなくてはならない。そのため、お試し住宅は移住者の受け入れを希望する集落と手を組んで進めたい。</p>	<p>地域振興課 移住交流推進課</p>

市民と市長の意見交換会<両津地区 夜の部> 質疑要旨

<p>両津福浦</p>	<p>島内の人口減少、特に中山間地の減少スピードは早く、今後は消滅集落が想定される中でのインフラ整備、道路や水道などで大きな負担が発生するのではと危惧している。将来的に除雪等行政サポートが難しい非可住区域を設定する事態も想定している。20年後30年後の佐渡についてどのように考えているか。</p>	<p>消滅集落は発生するかもしれないが、それをどう少なくしていくか考えなければならない。仰る通りインフラは間違いなく厳しくなる。もう一つ考えなくてはならないのが人口の偏在性の問題である。例えば両津地区なら、周辺部の住民が加茂歌代に移り住んでいる。それは島内で顕著な傾向。佐渡だけでなく日本、世界経済全体が今後マイナススパイラルの厳しい状況に置かれる中で、佐渡の素晴らしさに誇りを持って、外に仕掛けていくことが重要。本土から来る人で、環境の近い国中に住みたいという人は少数、海沿いを希望する人が多い。4月から10月の間は佐渡、冬季は東京で過ごす二拠点居住など、新しい生活方式も考えていかなければならない。佐渡に力があるうちにいろいろと仕掛けていきたいので、協力をお願いしたい。</p>	<p>企画課 移住交流推進課</p>
-------------	--	---	------------------------